こうじんやま

みどり市立笠懸東小学校　学校通信
TEL 76-6167　　FAX 76-6663
http://www.midori-school.ed.jp/kasahigashi
第１９号
平成３０年１２月５日発行

４年生　阿左美沼清掃に行ってきました！

朝方は少し肌寒いくらいでしたが、お日様が出てきて、ぐんぐん気温が上がってきました。中には袖をまくり上げて、一生懸命ゴミを拾ってくれるお友だちもいます。地元の美化活動に４年生達が積極的に参加してくれることは、地域の方々にとってもうれしいことだと思います。自分たちの街は自分たちできれいにしたいですね。

１２月３日　人権集会

校長講話　色々な話「水色のランドセルの思い出」

この間、ある先生が突然、「校長先生、話はかわりますが、そのネクタイかっこいいですね」と言ってくれました。

その時の校長先生のネクタイは鮮やかなピンク色のネクタイだったのです。

おっ、わかってくれましたか。と思いましたが、校長先生も実は朝、「似合うかなぁ」と、正直ちょっと不安だったんですね。６年生のある女子も「あ、校長先生ピンクのネクタイしている」と気づいてくれました。

いや一校長先生のことそんなに見ていてくれたんですね、ありがとう。

小学校に来て驚いたことがあります。それはみなさんのランドセルの色です。

ピンク、青、茶色に紫、色々な色のランドセルが有り、とても驚きました。

先生の小さかった頃は男の子は黒、女の子は赤、とランドセルの色が決まっていました。「決まっていた」といいましたが、誰が決めたわけでもないんですよね。

校長先生が先生になって２年目の出来事です。女の子が転校してきました。その子のランドセルがきれいな水色のランドセルだったのです。先生も驚いたけれど、まわりの子も驚きを隠せませんでした。黒と赤のランドセルの中に水色のランドセル。

その時代にあっては、人とちがうランドセルを選んだことは、勇気のいることだったと思います。でも、その子は自分の好きな色として水色のランドセルを選んだんですね。

校長先生は正直その勇気に感心しました。

ランドセルに限らず、長い間、男の子は黒か青、女の子は赤、ピンクと言うふうに決めつけてきた自分、あるいは社会に気付きました。同じようなことをみなさんもしていませんか。

自分の好きな色を選んでいいんだね。男の子でもピンクを身につけていいんだよ。女の子だって青や黒を選んでいいんだね。もちろん黄色や緑でもかまわない。好きな色は好きと言えることが大事だよね。

「ぼくは赤が好き」と言った子に、「え～、男のくせにおっかしいよ」と言う方がおかしいんだよね。スーパー戦隊だってリーダーはなぜか赤だよね。いつか女性のリーダーが出てくるときだってあるかもしれない。プリキュアにだって男子のプリキュアが出てくるかもしれない。（奇しくもこの前日、プリキュア史上初の男子プリキュアが登場しました。校長先生の予知能力？？）

職業で見るとどうでしょうか。今は看護師や、保育士でも男の人が増えてきていますが、昔は「女性の仕事だ」と決めつけてきた時代があります。今は職業選択の自由があります。

それだけではありません。昔、肌の色が黒いと言うだけで、アフリカ系の人々（昔は黒人とよばれましたが）は、言われなき迫害を受けてきました。人種差別と言います。

入れるお店、使えるトイレ、乗れるバスや通える学校も分けられ、働ける職業も限られました。

これは差別です。

肌の色で人を分けるのは愚かなことです。

この絵は、**「アメリカ国民の宿題」（ノーマン・ロックウエル作）**という題が付いています。どういう状況か、わかりますか？

これはアメリカで人種差別をなくそうとして法律ができました。「公立の学校では人種に関係なく児童生徒を受け入れるべき。」というものです。

黒人の女の子が、学校へ通う時に、差別する人達から被害を受けないように大人達（連邦保安官）が 4 人で守っています。壁には、投げつけられたトマトの跡。その中で一人の黒人の少女が自分の、いや自分たち黒人、もっと広くとらえれば、人類全体の人権のために戦っているように感じます。

ランドセルは自分の好きな色で選んでいいんだよ。職業は、性別に関係なく責任を持って取り組めばいいんです。

そして人は、肌の色に関係なく、その人が正しく生きているか、ひたむきに生きているか、が大切だと思います。

みなさんが「好きな色を好き」、と言える社会が、自由で差別のない世界につながると校長先生は思います。いつまでも続くといいですね。